

## 血圧管理の最前線

### 猫の高血圧症に対する診断と治療戦略

大塚駅前どうぶつ病院 心臓メディカルクリニック  
堀 泰智

## 猫の血圧を測定していますか？

- 測定したことがない？
- 測定しているけど、診断には自信がない？
- 治療方法に不安を感じる？
- 高血圧って大した病気じゃないから…  
興味がない？  
診断治療の優先順位が低い？



高血圧って意外と重大な病態を引き起こしてる？



### 難治性胸水の猫

### 痙攣発作が治まらない猫

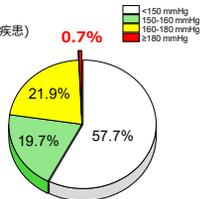
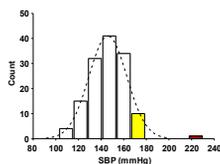


高血圧は重大な合併症を誘発する？

## 発生と原因

## 健康猫における高血圧の発生頻度？

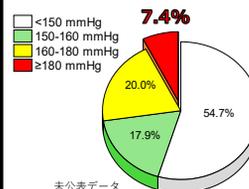
参加施設：15施設  
調査期間：2014~2017年  
対象猫 (137匹)  
・基礎疾患を除く無徴候の猫  
(CKD、糖尿病、甲状腺機能亢進症、心疾患、その他の全身性疾患)  
・年齢：6ヶ月~16歳6ヶ月



Hori Y, et al. J Vet Med Sci (2019).

## 猫全体における高血圧の発生頻度？

参加施設：15施設  
調査期間：2010~2017年  
対象猫 (285匹)  
・除外基準なし



未公表データ

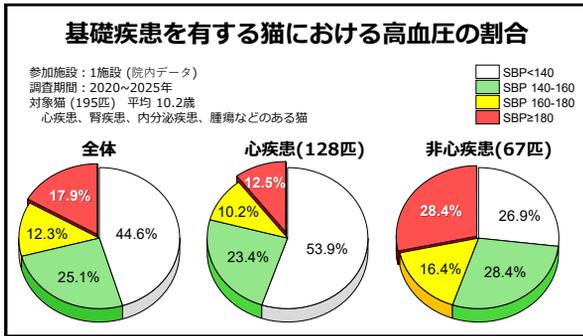
### 9歳以上の高齢猫(基礎疾患を含む)

- 13% (閾値>160 mmHg)
- 約12%<sup>1</sup> (>170 mmHg)
- 20%<sup>2</sup> (基準値不明)

1. Bijmans ES, et al. J Vet Intern Med 2015.  
2. Conroy M, et al. J Vet Intern Med 2018.

基礎疾患を有する猫の高血圧リスク  
**6.6倍**

( $\chi^2=13.5, P<0.001$ )  
未公表データ



### 全身性高血圧の誘因(猫)

- CKD: 30-50%
- 特発性(1次性): 約20%<sup>1</sup>, 30<sup>2</sup>-57<sup>3</sup>%
- 甲状腺機能亢進症: 1-3%<sup>2</sup>, 約7%<sup>3</sup>, 24.5%<sup>4</sup>
- 糖尿病: 2.13%<sup>4</sup>
- その他
  - 副腎皮質機能亢進症
  - 原発性アルドステロン症
  - 褐色細胞腫

**2次性高血圧が50%以上**

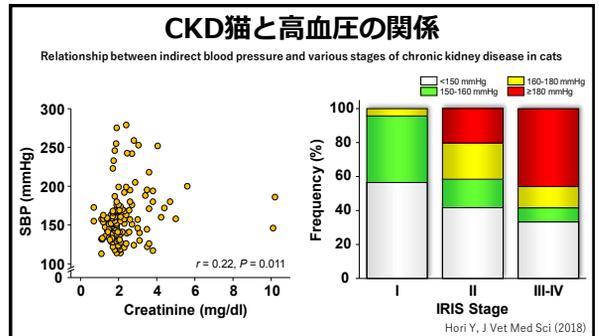
1. ACVIMガイドライン(2018)  
2. Coleman AE, et al. J Vet Intern Med (2019).  
3. Glauss TM, et al. J Vet Intern Med (2019).  
4. Conroy M, et al. J Vet Intern Med (2018).

### 全身性高血圧の誘因(猫)

- CKD
- 特発性(1次性)
- 甲状腺機能亢進症
- 糖尿病
- その他
  - 副腎皮質機能亢進症
  - 原発性アルドステロン症
  - 褐色細胞腫

	陽性数(n)	検査数(n)	割合(%)
Cre>1.7	23	37	62.2
T4>3.4	11	29	37.9
Glu>180	3	32	9.4
原因不明	5	39	12.8

院内データ(2020-2025)



**正しい血圧測定法**

### 非観血的血圧測定

- ドップラー法
- オシロメトリック法
- 光電容積脈波 (フォトプレチスモグラフィ)法

## オシロメトリック法

BP-100D II (フクダエム・イー)



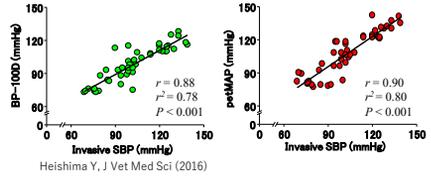
オシロメトリック法+フォトプレチスモグラフィ法



petMAPグラフィックII (オリンパス)

## 機械の精度?

全身麻酔下の健康猫(4頭)  
ドパミン負荷試験を行い血圧を測定した

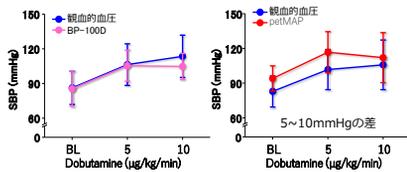


Heishima Y, J Vet Med Sci (2016)

観血的血圧と高い相関性

## 機械の精度?

全身麻酔下の健康猫(4頭)  
ドパミン負荷試験を行い血圧を測定した



BP-100Dは観血的血圧とほぼ一致

## 血圧上昇の原因は2つ!

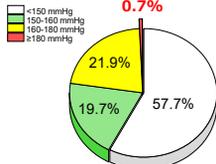
- 病的高血圧  
特発性(1次性) or 2次性高血圧症
- アーチファクト  
手技的エラーに起因する偽性高血圧



血圧が高い時にすべきこと?  
⇒ アーチファクトの除外

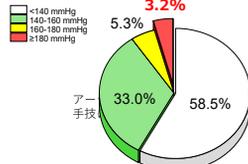
## 健康猫における血圧分布の変化

参加施設: 15施設  
調査期間: 2014~2017年  
対象: 基礎疾患のない猫  
n数: 137匹



Hori Y, et al. J Vet Med Sci (2019).

参加施設: 1施設  
調査期間: 2020~2025年  
対象: 臨床的に健康な猫  
n数: 94匹



院内データ (2020-2025)

## 正しい血圧測定法

1. 測定手技  
カフ: 選択、測定部位、付け方  
ポジショニング
2. 緊張の管理  
血圧測定のタイミング  
測定環境

**Point1 カフの選択**



カフの選択: 測定部位の円周の30~40%の幅  
ACVIMガイドライン(2018)

**注意: カフの幅はメーカーによって様々!!**

**Point1 カフの選択**

**メーカー推奨のカフを使用**



インデックスラインの内側にカフの端を必ず入れる  
 小さなカフをキツキツで巻くと数値↑

**Point1 カフのサイズの影響?**

目的: カフ幅の影響を解析  
 対象: 無麻酔下のビーグル犬  
 測定部位: 前腕径 (平均3.1cm)  
 測定法: オシロメトリック法

カフサイズ (幅×長さ)	カフ幅	SBP (mmHg)
5.4 × 15.0	+74.2%	142 ± 15.9 <sup>a)</sup>
4.6 × 13.1	+48.4%	145 ± 22.2 <sup>a,b)</sup>
3.8 × 10.9	+22.6%	154 ± 20.8 <sup>b)</sup>
<b>2.8 × 8.0</b>	<b>-10%</b>	<b>172 ± 24.0<sup>a)</sup></b>

P < 0.05; 異なるアルファベット間

結果  
**小さすぎるカフはSBPが有意に高値となる**

中田ら、動物の循環器(1990).

**Point2 カフの位置と姿勢の影響?**

**間違った測定法→偽性高値の原因**

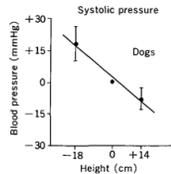


> カフと心臓の高さがズレていると結果に影響  
 > 1cm当り0.8~1.0 mmHgの血圧変化 ACVIMガイドライン(2018)

**カフの位置の影響?**

目的: カフと心臓の高さの違いによる血圧の変動  
 対象: 無麻酔下のビーグル犬  
 測定法: オシロメトリック法  
 方法: 血圧測定時のカフの位置

- 心臓と同じ高さ(0)
- 心臓より14cm高い位置(+14)
- 心臓より18cm低い位置(-18)



結果  
 > カフと心臓の高さがズレていると結果に影響  
 > 1cm当り0.8~1.0 mmHgの血圧変化

中田ら、動物の循環器(1990).

**Point2 カフの位置と姿勢の影響?**

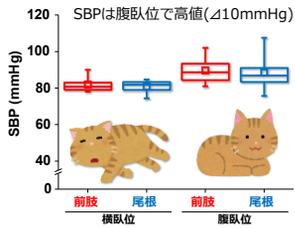
**正しい測定法**



カフは心臓と同じ高さにそろえる

## 姿勢・測定部位の影響?

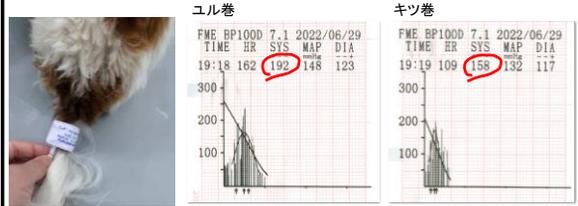
全身麻酔下の健康猫(4匹)



未公表データ

Point3

## カフの巻き方



同じサイズでも緩く付けると血圧が高くなる!!

Point3

## カフの巻き方



## 正しい血圧測定法

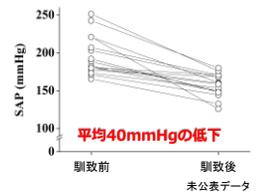
- 測定手技  
カフ：選択、測定部位、付け方  
ポジショニング
- 緊張の管理  
血圧測定のタイミング  
測定環境

## 血圧測定のタイミング?



## 血圧測定のタイミング?

診察室で各種検査の前に測定  
↓  
SBP $\geq$ 170mmHgの猫(51匹)  
↓  
各種検査の後に再測定  
↓  
16/51匹(31.4%)でSBPが低下



未公表データ

### 緊張の管理法

- 血圧を測定する環境に猫を慣らす(5~10分間)
- 各種検査を終えた後で血圧測定

**Point4** **測定環境(場所)**

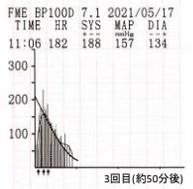
- 1. 物音を避ける**  
機械音、鳴き声などは避ける  
⇒ 密室を作る
- 2. 人の気配を消す**  
会話や動作の禁止  
最低限の人数
- 3. 照明を落とす**  
薄暗い方が安心?






**Point5** **どうしても高値の場合**

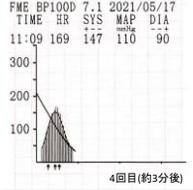
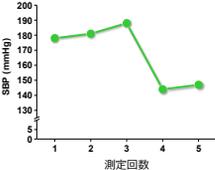
キャリアケースに戻して、静かで暗い環境で計測




3回目(約50分後)  
使用機器: BP-100D II

**Point5** **どうしても高値の場合**

キャリアケースに戻して、静かで暗い環境で計測

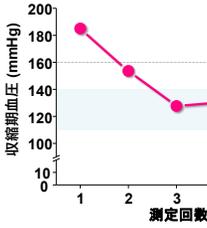



4回目(約3分後)  
使用機器: BP-100D II

**Point6** **測定値の採否**

- 動物が安静時にのみ実施
- 最初のデータは棄却  
異常高値の場合には手技の確認
- 血圧が安定するまで測定を繰り返す
- 最低2回の安定した数値を採用する

ACVIMガイドライン(2018)表1より



**全身性高血圧の診断**

**全身性高血圧の臨床徴候**

高血圧猫の臨床徴候

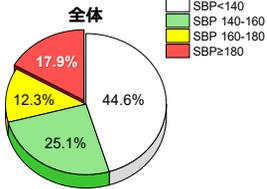
臨床徴候	n	%
失明	78	27.7
網膜症	132	46.8
神経学的徴候	44	15.6
発作	8	2.8
運動失調	18	6.4
行動の変化	13	4.6
旋回	5	1.8
無徴候	106	37.6

Conroy M. J Vet Intern Med (2018)(表3より抜粋)

- 網膜症**  
高血圧猫の約40% (堀ら)
- 腎機能障害(蛋白尿)**  
高血圧猫の23% (Conroy M, 2018)
- 左心室肥大**
- 大動脈解離** (Gouni V, 2018)
- 脳障害(痙攣、失神)**
- その他  
元気・食欲の低下 (堀ら)  
(ヒト)  
頭痛、動悸・息切れ、肩こり・眩暈など

## 全身性高血圧の臨床徴候

参加施設：1施設（院内データ）  
調査期間：2020~2025年  
対象猫（195匹）  
心疾患、腎疾患、内分泌疾患、腫瘍などのある猫



高血圧猫(39匹)に占める臨床徴候

臨床徴候	n	%
視力障害	2	5.1
神経学的徴候	9	23.1
発作・痙攣	6	
旋回	1	
ふらつき・後肢麻痺	2	
無徴候	8	21.6
削瘦・脱水	24	61.5
食欲低下	14	35.9

院内データ(2020~2025)

## 高血圧症の早期診断?



特徴的な徴候・兆候はない!

見逃されがち?

病態が複雑化している 😞



## 早期発見のポイント?

- ・高年齢猫(≥9歳) ACVIMガイドライン(2018)  
⇒ 日常的なスクリーニング
- ・基礎疾患のある猫  
腎疾患  
甲状腺機能亢進症  
削瘦・脱水(by 堀)

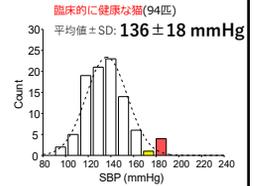


高血圧が隠れている可能性



## TODリスクに基いた高血圧の分類

Category	TODリスク	収縮期圧
正常血圧	minimal	<140
前高血圧	low	140-159
高血圧	moderate	160-179
重度な高血圧	high	≥180

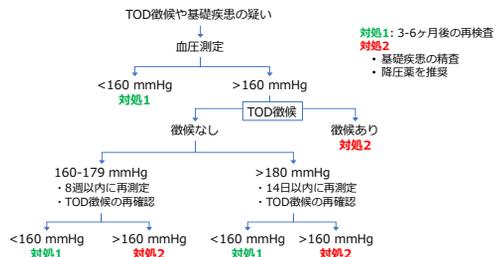


ACVIMガイドライン(2018), 表6

TOD (標的臓器障害: Target Organ Damage)

- ・高血圧による眼, 心臓, 腎臓, 脳血管などの障害
- ・犬猫でTODが発生する血圧値は…不明

## 高血圧の診断アルゴリズム



ACVIMガイドライン(2018) 図1より

## 高血圧の診断手順(まとめ)

### 1. アーチファクトや白衣効果の除外

- カフの高さ: 心臓は同じ高さ?
- カフのサイズと巻き方: 適切?
- 5-10分の間隔を空けて再測定
- キャリアケース内(静穏で暗い環境)で再測定

### 2. 治療の開始ポイント

- 初診時にTODのある高血圧  
⇒ 治療を開始することが妥当
- 2回以上の診察時に高血圧  
⇒ 二次性高血圧の精査 & 降圧薬を推奨

## 全身性高血圧の治療

## 高血圧の治療方針

- **SBPが150-160mmHgの症例**  
降圧治療は行わない  
全身状態と血圧のモニター
- **2次性高血圧の症例**  
基礎疾患の治療  
半年毎に全身状態と血圧のモニター
- **降圧治療を行う際**  
急激なSBPの低下は避けるべき  
段階的で持続的なSBPの低下が目標  
1日1回の治療が理想的 (さらに少ない治療法が好まれる)
- **降圧薬が部分的にしか効果がない場合**  
人医では複数の降圧剤の併用が一般的

ACVIMガイドライン(2018)

## 高血圧治療の第1選択は?

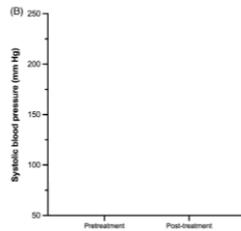
Number 19, August 2012 | Volume 46, Number 8  
2012, Volume 46, Number 8  
STANDARD ARTICLE  
Journal of Veterinary Internal Medicine ACVIM

Blood pressure in hyperthyroid cats before and after radiiodine treatment

Lisa Stammeier<sup>1</sup> | Pilar Xifra<sup>2</sup> | Sara I. Soriano<sup>3</sup> | Mark Ribicich<sup>3</sup> | Sylvie Damrel<sup>4</sup> | Mark E. Peterson<sup>5</sup>

**目的:** 甲状腺機能亢進症の猫における治療前後の血圧の変化を解析  
**結果:** 無治療の高血圧猫: 108/401匹 (27%)  
治療後に再検査を受けた猫 (87匹)  
血圧が正常化した猫: 43匹 (49%)  
高血圧のままの猫: 44匹 (51%)

**基礎疾患の治療が最優先**



Stammeier L, J Vet Intern Med. 2012

## 猫における降圧薬の選択

分類	薬剤	適応例	用量
ACE阻害剤	ベナゼプリル	CKD	0.5-2.0 mg/kg, sid
ARB	テルミサルタン	CKD	1-2 mg/kg, sid
Caチャネル遮断薬	アムロジピン	特発性高血圧 CKD	0.1-0.5 mg/kg, sid 0.625-1.25 mg/頭, sid
β遮断薬	アテノロール	副腎腫瘍(褐色細胞腫)	6.25-12.5 mg/頭, bid
α遮断薬	ブラゾシン	副腎腫瘍(褐色細胞腫)	0.25-0.5 mg/頭, sid
MR拮抗薬	スピロノラクトン	副腎腫瘍(高Ald症)	1.0-2.0 mg/kg, bid
血管拡張薬	ヒドロラジン	緊急治療	2.5 mg/頭, sid-bid

ACVIMガイドライン(2018)

## ACE阻害剤

**適応:** (主に)慢性腎臓病

**用量**

ベナゼプリル: 0.25-0.5 mg/kg, sid  
アラゼプリル: 1-3 mg/kg/日, sid-bid

**効果**

- 腎輸出細動脈の拡張、蛋白尿の改善
- 慢性腎臓病猫の動脈圧を適度に低下<sup>1</sup>



高血圧の猫での効果?

1. Brown SA, Am J Vet Res (2001)
2. Steele JL, Vet Ther (2002)
3. ACVIMガイドライン(2018)



Effects of angiotensin-converting enzyme inhibition on plasma aldosterone concentration, plasma renin activity, and blood pressure in spontaneously hypertensive cats with chronic renal disease.

**目的:** 高血圧を伴う慢性腎臓病の猫においてACE阻害剤の効果を検証する

**対象:** 腎性高血圧の猫 (n=16)

**薬剤**

エナラプリル (n=6)  
ベナゼプリル (n=10)

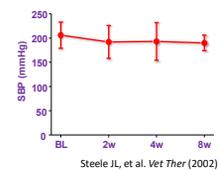
**用量**

エナラプリル (0.36-0.53mg/kg/日)  
ベナゼプリル (0.64-0.80mg/kg/日)

**結果**

**14匹(87.5%)ではSBPが170mmHg以下に下がらなかった**

**高血圧の猫ではACE阻害剤は第1選択にすべきではない!**



Steele JL, et al. Vet Ther (2002)

Received: 28 January 2018 | Accepted: 13 November 2018  
DOI: 10.1111/jvim.15294

Journal of Veterinary Internal Medicine **ACVIM**  
Official Journal of the American College of Veterinary Internal Medicine

**STANDARD ARTICLE**

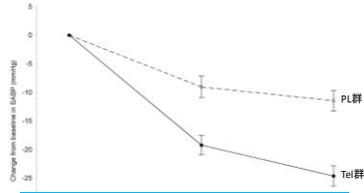
**Efficacy of long-term oral telmisartan treatment in cats with hypertension: Results of a prospective European clinical trial**

Tony M. Glau<sup>1</sup> | Jonathan Elliott<sup>2</sup> | Esther Herberich<sup>3</sup> | Tanja Zimmering<sup>4</sup> | Balazs Albrecht<sup>5</sup>

**目的:** 高血圧の猫におけるテルミサルタンの有効性を検証する  
**デザイン:** 前向き多施設、無作為、2重盲検、プラセボ対照試験  
**対象:** 285匹のTODのない高血圧猫(SBP:160~200 mmHg)  
Tel群: 189匹 vs CTL群: 96匹  
Tel群の高血圧の内訳  
特異性: 57.7%、CKD: 30.2%、甲状腺: 7.4%、CKD+甲状腺: 4.8%  
**用量:** 2.0mg/kg, sid



**Efficacy of long-term oral telmisartan treatment in cats with hypertension: Results of a prospective European clinical trial**



**SBPは14日目に19.2mmHgの低下**

Glau TM, J Vet Intern Med. 2019

**アンジオテンシン受容体拮抗薬**

**適応:** (主に)慢性腎臓病、高血圧の猫  
**用量:** **テルミサルタン**  
**1.5~2.0 mg/kg/day (高血圧の猫)**<sup>1,2</sup>  
\* 1 mg/kg, sid (腎疾患の犬猫)

**その他の報告**

- 腎性高血圧(犬)のSBPを10%ほど低下<sup>4,5</sup>
- ACE阻害薬よりも血圧低下作用が良好<sup>3,5</sup>
- ACE阻害薬と併用した方が効果が高い<sup>3,5</sup>



1. Coleman AE, et al. J Vet Intern Med (2019).  
2. Glau TM, et al. J Vet Intern Med (2019).  
3. Fowler BL, et al. J Vet Intern Med (2021).  
4. Miyagawa Y, et al. Res Vet Sci (2020).  
5. Lourenço DN, et al. J Vet Intern Med (2020).

**アンジオテンシン受容体拮抗薬**

**副作用**

- 低血圧の報告はない
- 嘔吐: 6-24%
- 下痢: 2-9.4%
- 元気消失: 3.6-6.8%

**TABLE 6** Frequency of adverse events (number and % of cats affected in each group) during the 28-day efficacy phase of the present study (intention-to-treat population)

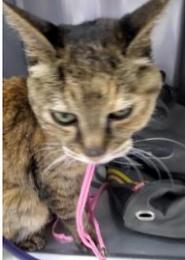
	Telmisartan (n = 192) (%)	Placebo (n = 96) (%)
Vomiting	46 (24.0)	14 (14.6)
Diarrhea	18 (9.4)	4 (4.2)
Lethargy	13 (6.8)	3 (3.1)
Weight loss	13 (6.8)	5 (5.2)
Decreased appetite/inappetence	13 (6.8)	7 (7.3)
Nonregenerative anemia	11 (5.7)	2 (2.1)
Dehydration	10 (5.2)	4 (4.2)
Retinal lesions	4 (2.1)	6 (6.25)

Coleman AE, et al. J Vet Intern Med (2019).

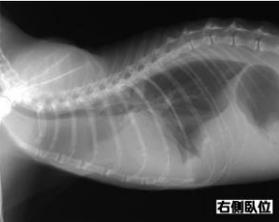
**副作用が少なく、安全性が高い**

**難治性胸水の猫**

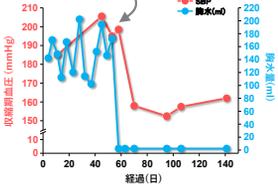
品種: Mix  
性別: 避妊♀  
年齢: 17.1歳  
体重: 2.3kg  
主訴  
7日前から咳・努力性呼吸  
2日前に胸水抜去(約200ml)  
(胸水の)原因不明と言われた。



**診断と治療経過**



メルカゾール: 0.57mg/kg & 1.14mg/kg  
アムロジピン: 1.25mg/h, sid  
ヒモベンダン: 0.21mg/kg, bid  
トラセミド: 0.05mg/kg, sid



**血圧管理がうまく心性心不全(胸水)の治療にも有効だった**

## 痙攣発作が治まらない猫

動物種：猫(mix)  
 年齢：19歳  
 性別：♂  
 体重：4.7kg (以前：5.3kg)  
 来院(紹介)理由  
 10日前から発作  
 ガバペンチン(50mg, bid)で改善なし  
 2hおきに痙攣

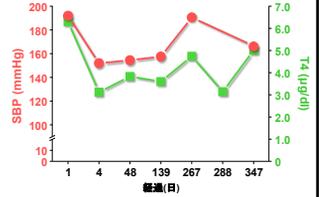


## 診断と治療経過

**診断**  
 全身性高血圧症 (SBP: 192mmHg)  
 HCMフェノタイプ  
 甲状腺機能亢進症 (T4: 6.3 µg/dl)

**治療**  
 テルミサルタン: 2.15mg/kg, sid  
 メルカゾール: 0.27mg/kg, bid  
 フェノバル: 1.8mg/kg, bid

**経過**  
 発作は激減 (数ヶ月に1回)  
 フェノバルは2ヶ月後に一時休薬



血圧管理が痙攣発作の治療にも有効だった

## 高血圧が引き起こす重篤な合併症

人医では

- 高血圧性心不全**  
 高血圧によって心臓に過度な圧力がかかることで、心筋肥大を起こしたり、心臓の収縮力が低下したりして、心不全を引き起こす。
- 高血圧性脳症**  
 高血圧緊急症の一種で、脳の血管が破綻し、脳浮腫や意識障害、けいれんなどの症状を引き起こす。  
 例) 頭痛、吐き気、嘔吐、意識障害、けいれん、視力障害など

## セメントラの使いどころ?



**症例**：日本猫 (17歳9ヶ月、去勢♂)  
**体重**：4.1kg  
**BCS**：3-4/9  
**経過**  
 ・2024年5月  
 ふらつき、食欲不振で夜間救急  
 心筋症、CKD、高血圧の疑い  
 ⇒アムロジピンを開始。  
 ・2024年12月8日  
 呼吸促拍&胸水貯留で夜間救急  
 ⇒心筋症が胸腔内腫瘍の疑い  
 ⇒3-5日毎に胸水抜去を実施



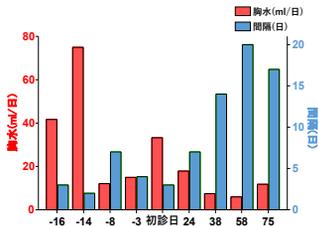
初診時(2025年1月7日)  
 BUN: 60.7 mg/dl  
 Cre: 4.0 mg/dl  
 SBP: 190 mmHg

## セメントラの使いどころ?

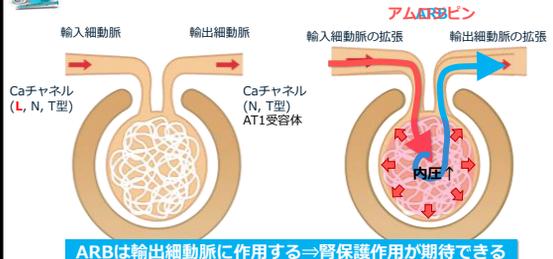


**治療**  
 ペナゼプリル: 0.61mg/kg, bid  
 スピロノラクトン: 1.52mg/kg, bid  
 ベトメデイン: 0.30mg/kg, bid  
 アムロジピン: 0.15mg/kg, sid  
**セメントラ(2.4mg/kg, sid)を追加**

**経過**  
**第15病日**  
 SBP: 190 ⇒127 mmHg  
 胸水↓  
**第57病日**  
 BUN: 60.7 ⇒61 mg/dl  
 Cre: 4.0 ⇒3.7 mg/dl



## ARBでクレアチニンが低下!?



## セメントラの使いどころ?



症例：mix猫 (13歳、避妊♀)

体重：3.8kg

BCS：5/9

経過

CKD (IRIS 3)

BNPが高値(928pmol/L)

治療

セメントラ(1.2mg/kg, sid)

ペラプロストNa

サプリメント

SBP: 182 mmHg



セメントラの増量(2mg/kg)

## セメントラの使いどころ?



経過：2週間後の再検査

全身状態：著変なし

血圧：182 ⇒ 170.5 mmHg

治療

セメントラ(2mg/kg, sid)

ペラプロストNa

サプリメント

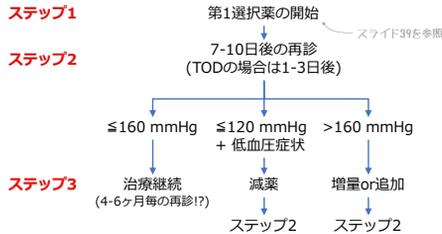
アムロジピン(0.16mg/kg, sid)

を追加

約3ヶ月後の血圧: 150 mmHg



## 高血圧治療のプロトコール



ACVIMガイドライン(2018) 図2より

Received 17 March 2017 | Revised 28 April 2018 | Accepted 24 July 2018  
DOI: 10.1111/jvim.15387

Journal of Veterinary Internal Medicine ACVIM

STANDARD ARTICLE

Survival after diagnosis of hypertension in cats attending primary care practice in the United Kingdom

Megan Conroy<sup>1</sup> | Yu-Mei Chang<sup>2</sup> | Dave Brodbelt<sup>3</sup> | Jonathan Elliott<sup>1</sup>

予後良好因子	ハザード比	P値
スクリーニング検査によって検出	0.58	0.01
アムロジピンの増量	0.56	0.01
予後不良因子	ハザード比	P値
網膜剥離のある猫	1.71	<0.01
アムロジピン治療を受けない	1.59	0.06
腎不全の併発	2.05	0.002
糖尿病の併発	3.31	0.006

表4から抜粋

血圧管理によって高血圧猫の死亡リスクは低下

FULL PAPER

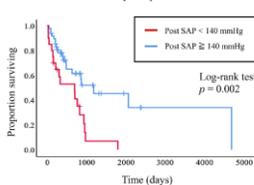
Internal Medicine

Use of amlodipine in the treatment of cats with systemic hypertension in Japan

Shohei MORITA<sup>1</sup>, Youhei MOCHIZUKU<sup>1</sup>, Itsuki MATSUMOTO<sup>1</sup>, Ayumi HORII<sup>1</sup>, Takahiro OHMORI<sup>1</sup>, Daiki HIRAO<sup>1</sup>, Hiroshi HASEGAWA<sup>1</sup>, Aritada YOSHIMURA<sup>1</sup>, Takashi BABA<sup>4</sup>, Shuji SUZUKI<sup>5</sup>, Ryuji FUKUSHIMA<sup>6\*</sup>

Secondary endpoint

多変量Cox比例ハザード解析の結果 (表8より一部改変)



変数	ハザード比	95% CI	P値
年齢	1.109	1.017-1.209	0.019
体重	0.706	0.470-1.062	0.095
アムロジピン >0.25 mg/kg/日	1.189	0.583-2.425	0.634
CKDの有無	1.500	0.515-4.369	0.457
アムロジピン投与後のSAP <140 mmHg	2.662	1.307-5.420	0.007

Morita S, et al. J Vet Med Sci. 2024

## 高血圧(猫)の診断と治療

診断

- 正しい血圧測定法の確認 & アーチファクトの除外
- 高値の場合  
時間を空けて再測定、静穏で暗い環境、ケージ内

治療

- SBP>180mmHgが継続 ⇒ 治療を検討
  - ✓ 基礎疾患の治療
  - ✓ アムロジピン、テルミサルタンが有効
- 高血圧網膜症の場合は入院治療を推奨



## 高血圧症の早期発見?



特徴的な徴候・兆候はない!

見逃さないために日々チェック



病態が複雑化する前に診断・治療

生命予後の改善!?



最後までお付き合いいただき

ありがとうございます。

先生方の診療のお役に立てば幸いです。

